投稿　研究ノート

労働と女性
―スリランカ農園部のプラッカーの女性たち―

磯 邉 厚 子

要　旨

スリランカは、女性の社会進出が進み、性差別や社会的差別も少なく、女性の就学率においても他の途上国に比べ、良好な状態にある。保健サービスのネットワークにより妊産婦死亡率や乳児死亡率も低く、平均寿命も高い水準にある。しかし、女性の政治への意思決定の参加や失業率分布では、男性との間に格差がみられる。一方、国内の社会インフラを都市部、農村部、農園部のセクター別にみると、農園部は人の生活に必要な電気や水、トイレなどが未整備で、教育、保健、所得面からも低い水準にある。それは女性の生活や労働に直接的に影響するものである。とくに紅茶生産の基盤である茶摘みに従事するプラッカーと呼ばれるタミル人女性の労働環境は、長時間の屋外労働、低賃金、男女差別など厳しい労働条件がみられる。またリプロダクティブ・ヘルスにおいても、妊産婦の貧血や出生時低体重児が多くみられる。農園部の女性は、家庭内・家庭外の労働において、その実質的な担い手であるにもかかわらず、政治的には民族的マイノリティとして、社会的・経済的には労働階層の底辺に留められ、さらにはコミュニティでの意思決定への参加が制約されている。

それは女性のエンタイトルメント（権原）を減退させ、様々な権利や剥奪に対する要求を求めることや、教育の機会、他とのコミュニケーションの機会に影響を与えている。したがって、女性が単に農園の生産に携る労働者としてではなく、社会組織のサポートや、知識や技能に裏付けられたエンタイトルメントを獲得すること、すなわち、女性が変化を生む可能性をもった能動的な一人の人間として行使できるエンタイトルメントを獲得することが農園という特殊な環境での社会的、経済的機会の乏しさの中で求められる緊急の課題といえる。そのためには、農園経営下の適正な労働供給と、女性の労働に対する再評価や、民族的マイノリティを越えた公的支援による機会の創出が急務と考える。

キーワード：女性、労働、農園、自由、エンタイトルメント

はじめに

90年代以降、人間開発報告書が公刊されるようになり、人間開発とは「人の選択の拡大過程」であり、最も重要な選択肢は、健康的な生活を送ること、知識を得ること、人間らしい生活水準を得ることであると定義された。またその剥奪状況をもって人間貧困と定義した。そこには、単に所得が貧困であるというのではなく、安全な水や住居の確保ができない、適切な栄養が摂れない、教育の機会が少ない、雇用の選択ができない、長生きが困難である（予防可能な疾病で早死する）、必要な情報を的確に得ることができない、地域の資源配分が不平等である、労働改善を要求できない、自分の意見や考えを適切に表現できない、自信がもてない、さらには社会の中での選択や参加機会の欠如、社会的疎外や差別など多様な困窮状態が含まれる。それは、誰もが望むであろう望ましい生活や状態に変化させていくための、エンタイトルメント（権原）[1]に影響するものである。

スリランカは、女性の社会進出が進み、性差別や社会的差別も少なく、女性の就学率においても他の途上

国に比べ良好な状態にある。早期から政治参加や教育の機会が開かれ、地域や社会活動にも女性の活躍がみられる。また家族計画の推進により一家族当たり平均二人の子どもの水準に達している。筆者は保健医療の立場から、女性の健康にもっとも影響を及ぼすリプロダクティブ・ヘルスの指標を分析したところ（妊産婦死亡率や乳児死亡率は緩やかに減少しているが）、妊産婦の貧血や出生時低体重児率が高かった。都市部、農村部、農園部のセクター別では、農園部が最も厳しい状態であった[2)]。農園部は一次産業における女性の雇用率が高く、女性の識字率が他地域より低いことも特徴的である。電気や水、トイレ設備などの生活の基礎的インフラにおいても、他セクターに比べ、整備が遅れている[3)]。

女性の健康問題の視点から、農園に働く女性はいったいどのような生活を送っているのか、またどのような労働条件のもとにあるのか、その背景を知るために2005年5月、立命館大学の中部州ヌワラエリヤ県（人口約70万人）の2つの農園での社会調査に調査補助として同行した[4)]。農園管理者へのインタビューや、人々の生活空間への訪問、コミュニティでのワークショップに参加した結果、農園で働く女性たちにとって、最低限の生活環境、政治・経済・社会的サービスの機会、職業の選択、社会的活動への参加など、女性が健康で望ましい生活を送るための様々な要件が未充足であることを認識した。本稿では、農園部の女性の健康に影響すると考えられる生活環境や労働環境、その背景や要因、女性のエンタイトルメントについて考察する。

1．農園労働者の背景

インド洋上に浮かぶ島スリランカは、北海道の約8割程度の面積（65,610㎢）で人口約1900万人である。1948年イギリスの一連邦国家として独立し、1972年に完全独立を果たした。民族構成はシンハラ人72%、スリランカタミル人13%、スリランカムーア人8%、インド系タミル人5%、その他1%の多民族・多文化社会である。イギリス植民地時代に発した紅茶プランテーション（以下農園）は、労働者を南インドからリクルートしたことによって成立した。そのため現在も多くのインド系タミルの人々で農園部は構成されている[5)]。移住した人々は、農園組織の末端労働者として、長い間スリランカの輸出産業である紅茶の生産を支えてきた。中でもプラッカーと呼ばれるフィールドで茶摘みに従事するタミル人女性は、紅茶の生産を支える最も重要な労働力であった。一方、人々は、スリランカとインドの制度の違いにより長い間、農園労働者としてのみ処遇され、ID カード≪市民権≫を得ることができなかった。そのため政治的、経済的、社会的にも不自由な生活を強いられてきた[6)]。人々は農園内に居住し、地理的にも町の中心から遠く離れた山間部に集落を作り、ラインハウスと呼ばれる窓のない暗く狭い長屋で生活を送った。それは最低限の生活水準には程遠く、労働後の身体を癒すには、粗末な居住環境であった。

1992年、農園の民営化に伴い、農園の福祉がプランテーション産業省の傘下機関である Plantation Human Development Trust（以下 PHDT）に運営されるようになり、住居や水設備などの生活環境の改善が進められるようになった。国際援助機関の支援もあり、ID カードの取得も容易になった。近年、学校教育も政府管轄下に置かれるようになり、農園の人々の生活に、ようやく変化のきざしがみられるようになった。

しかし、住居、電気や水、トイレなどの改善は始まったばかりで、いまだにイギリス統治時代の古い住宅に住む人々は多い。農園の女性の多くは、屋外でのプラッキング（茶摘み）労働に従事し、その報酬は日当制で低賃金の状態に置かれている。

2．生活環境と女性の労働

生活環境における様々なリスクからの保護は、人が生活するために最低限保障されなければならないものである。とくに、適切な住居や基礎的インフラは、単に衣食住を満たすだけでなく、家族の休息や団欒を提供し、人の成長や活力を生み育てる役割がある。したがって、人間らしい生活を遂行するために、生活環境の整備は急を要するものである。

それは、女性の家庭内労働に直接的に影響を与える。風雨を凌ぐことのできる住居、安全な水、適切な栄養、トイレ、電気設備などは人の生活の基盤であるが、それらの未充足への補完は、女性の役割が期待される。食糧調達に不便な交通アクセス、不完全な飲料水の調整、水汲み・薪による調理、灯油ランプの確保などの

家事役割は女性の身体に大きな負担を与える。また不適切な居住環境は、疾病に罹患しやすく、家族の身体を脆弱にし、女性のケア役割がさらに求められる。財政的リスクも負う。本来、安全な水や食糧、衛生設備、教育などは、人にとって最低限必要な生活基盤であり、公的政策に支えられるべきであるが、農園部はそれらがもっとも不十分である。山の斜面の集落を訪ねると、石を載せた切り貼りのトタン屋根、暗く狭い世帯毎の長屋、粗末な台所、不衛生な水や狭い共同トイレ、遠い学校や病院など、生活環境が極めて劣悪であった。安全な飲み水は都市部のコロンボは95.8％確保できているが、農園部のヌワラエリヤ県は68.8％である[7)]。

政治や地域活動に参加できること、他者から疎外や差別を受けることなく生活すること、もしくはそれらの危機からの保護は、民主的な国家やコミュニティのサポートに支えられるものである。しかし、生活そのものが農園経営下にあるコミュニティは、社会的、経済的機会のサービスへのアクセスが限られている。製茶工場は幹線道路沿いにあるが、人々の住居は道路脇から遠い山の斜面にあり、買い物や通信手段のため町へ出ることがあっても、日常的に情報が乏しい。それらは、家事、育児、プラッキングを担う多忙な女性たちにとって、生活を改善するための様々な機会に触れたり、主体的な組織づくりや活動に参加するなどの自立的な活動を困難にしている。

農園内には、女性の労働時間内に5歳までの子どもを預かる無料の託児所がある[8)]。そこで定期的な集会が持たれる以外、女性が集会を持つことは少なく、コミュニティの重要な資源や決定事項は男性に担われている。コミュニティにルールはなく、慣習的に話し合いがもたれるが、宗教行事以外の話題は少なく、住民がコミュニティの問題を話し合ったり、自らが何かを決めていくという住民パワーが少ないことも、女性が意思決定から排除されやすい要因となっている。

さらに労働組織の末端労働者であるタミルの人々は、学歴も不要で雇用が容易に提供される一方で、賃金や労働条件の改善への参画を難しくしている。

2つの農園の女性のワークショップに参加した20代から50代の女性10名に対し、「女性とは？」の質問では、忍耐強い、決定権がない、家族に対する責任、という答えがあった。「男性とは？」の質問では、力強さ、攻撃的、決定権をもつ、家長、などの意見があった[9)]。同時に行った同世代の男性のワークショップで、女性は辛抱強い、と男性の意見があった。性役割が明確な上に、女性は経済活動と家事労働の責任の両方を担っており、自己の生き方や望ましい生活について考えたり、社会活動に参加したいと考える機会が非常に少ない。したがって、基礎的インフラの未整備により日常生活そのものが厳しい状況にある上に、家族を支え、経済を支える女性は、生活のアクセスの厳しさと過重な労働に曝されている。屋外労働と家事をこなす女性は、さらに生命を育む役割をもっており、十分な栄養が必要であるが、豆類や小麦粉を練った食物が中心で、肉や魚などの蛋白源を摂る機会が極めて少ない。宗教的拠り所である寺院にも女性は産後1ヵ月以内は訪れることができない。

3．女性と茶園労働

当国の茶園に従事する女性労働者は生産面で高く評価されている。一般に女性の労働は過小評価されやすいが、茶園の女性の需要は高い。そのため女性が家計に果たす役割は大きく、むしろ男性は農薬散布や畝の整備などの不定期な業務のため失業しやすく、建設業、採掘業などの日雇い労働や、コロンボへ出稼ぎに出ることがある。農園労働者の半数以上は女性で占められ、業務内容の大半は茶園でのプラッキングである。それは前述の生活環境と同じく、厳しい労働環境に置かれている。裸足で炎天下の山の急斜面を歩き、茶葉を摘む作業は地道で忍耐力を要するものである。長時間の屋外労働は、女性の身体にとって、適切な労働環境とはいえず、むしろ有害な環境である。手先が器用な女性に向いているという理由で、プラッキングは女性専用の仕事とされている。しかし、危険な屋外作業は評価されず、評価されるのは、茶葉を多く摘むことであり、熟練し多く摘んだ場合に、賃金が上乗せされる。労働条件やその内容は問われず、単に生産的、経済的手段として女性の労働が捉えられている。午前8時から17時まで（Tea time と Lunch time を含む）8時間労働である[10)]。男性は8時から14時までの6時間労働で、学校の子供の迎えや自宅で農園以外の仕事を行う。賃金は女性と同じ日当 Rs.135（135ルピー：日本円で約135円）で、労働時間は女性より短い。

一方で、仕事能力は昇進の機会に繋がらず、タミル人女性が農園組織の事務職や役職に就くことは日常的

にありえない。就学率が低く、IDカードが未取得であると、プラッキング以外に職業の選択肢はなく、身体は苛酷な自然環境に常に曝されている。標高差のあるハイランド地方の気候は、山間部の朝夕の気温差が大きい。とくに雨季は、薄ら寒い天候であると共に、山の斜面は滑りやすく落石の危険もある。またトイレのない山中は女性にとって非衛生的である。じめじめした山中でヒルに噛まれるなど、元々貧血気味である女性にとって、疾病を引き起こしやすい環境である。(除草のための) 農薬が年3－4回散布されるが、散布後10－12日目にはプラッキングするため休暇は少ない。一部の女性は製茶工場で、生茶から乾燥、パッキングの工程を担っているが、息がつまるほどの茶塵が立ちこめる室内は、適切な労働環境とはいえない。

業務のノルマは、男女共月に25日間であるが、日当は同じであるため、労働時間が男性より長い女性は不平等を負っている。1ヘクタールの面積を9名で担当し、17時に山を降りる。女性の1日のプラッキングのノルマは16kgである。1kg追加毎にRs.7の賃金が加算される。日当制のため休めばカットされる。農園労働者の3分の2を占める女性には、第1子と2子の出産後に84日間の有給休暇がある。しかし第3子目からは42日間となるため、経済的理由で無理をして働く女性がいる。産前の休暇はない。有給は借金の返済や、夫の嗜好品に使われることがあり、出産した母親と子どもの栄養摂取に届かないことも少なくない。

農園内には、助産師とEMA（Estate Medical Assistant）が駐在するクリニックがある。当国の保健システムである助産師の妊産婦訪問率は、他セクター（80－90％台）に比べると農園部は最も低く（42％）、母子保健へのアクセスが不十分である[11]。家族計画においても、女性が注射や手術を受けることが多く、過酷な労働と女性役割の責任の過重において、女性の健康状態は危機に曝されている。当地区の病院の医師によると、農園の女性は貧血など栄養不足に起因する疾病や、身体の痛み、頭痛などの多様な症状がみられるという。

一方、タミルの人々が多く住むヌワラエリヤ県では、80％がヒンドゥ教徒であり、伝統的な社会では、家族の長とされる男性は権威をもつが、女性の地位は低く置かれていることが多い。賃金が男性にコントロールされる場合も多く、女性の社会的、経済的活動の参加への阻害要因になっている。プラッカーの女性は、所得獲得能力が大きいにもかかわらず、家庭内やコミュニティ活動、様々な意思決定事項にそれが反映されることはない。男性支配社会であるコミュニティや労働環境において、女性の所得は、家族内地位やコミュニティ活動とは比例していないのである。

以上のことから、農園部に働くタミルの女性労働者は、労働においても家庭においても、その実質的な担い手であるにもかかわらず、政治的には民族的マイノリティとして市民的自由の制約があるだけでなく、社会的、経済的には労働階層の底辺に留められ、さらに文化的、慣習的にも重要な意思決定に加わる機会が極めて少ない。

そのため、身体の酷使と、心理的ストレスのリスクに常に曝されている。言語のハンディ[12]、移動の困難さ、健康の知識や職業の選択の幅と機会の欠乏、家庭内配分における不平等など、人としての能力を発揮するための手段があまりに乏しい。

4．女性のエンタイトルメントと危機

これまで、農園部の生活環境や、女性の労働環境を述べてきたが、これらは主として人の自由の本質としての役割と、道具としての役割と呼ぶことが出来る。自由の本質としての役割は、人の生活を豊かにする上で本質的な自由の重要性に関わるが、それは人並みの生活を送ることができるという自由だけでなく政治、経済、社会的参加などの自由も含まれる。すなわち自由は、人の生活の豊かさそのものであり、人が人間らしく生きるための目的であり手段といえる[13]。

一方、道具としての役割は、様々な権利やエンタイトルメントがどのように人の自由に寄与しているかに関っている[14]。エンタイトルメントとは、ある人が何かをもつ、または受け取る、あるいは何かをする法的権利、あるいは正当な請求権を与えるという意味で、権利を保有していること、権利としてもっている量などである。例えば、栄養不足を改善するために、適切な食物を摂取することが必要だが、それ以前に、適切な食物を手に入れるためのエンタイトルメント（資金や資源、体力・知識などの個人的能力や、公的、社会的組織の統合した効果的機能、市場の共有システムなどを含む）の行使が必要である。ある家族の経済的エ

ンタイトルメントを決定するものに基本財産がある。基本財産とは市場で価格がつく生産資源と富の所有であるが、その重要なものに土地と労働力がある。農園経営下に生活が委ねられているタミル人労働者の場合、主に労働力以外に大きな資源を持ち得ない[15]。熟練した技能と組み合わされるかもしれないが、一般には労働力がエンタイトルメントである。農園の生産に関る基本財産（賃金）により、食糧を購入する能力を獲得し、栄養を摂ることができるのである。女性の茶園労働における所得は、家族の経済的条件の重要な因子であり女性のエンタイトルメントである。一方、所得で得た様々な購入物に対し家族内配分がどう行われるか、それは教育や所有権、慣習、家族の役割機能などに影響を受ける。また、女性の労働力（労働条件と賃金）が十分評価されなかったり、男性にコントロールされたり、女性に対し文化的・宗教的制約などがあると、女性はエンタイトルメントを行使できないことがある。

そのため、家族の基本財産の一つである女性の労働力は、茶摘みを上手く行うという能力を含む労働の重要性という現実のもとで、労働市場や賃金体系について、とくに注意が払われなくてはならない。女性の所得は、家族の栄養配分や子どもへの教育の交換条件に繋がる可能性が高いからである。プラッカーの女性は、労働力によって、実際何を手に入れることができているのだろうか、どのような機会の創出に繋がっているのだろうか、労働に対して適切な賃金体系や市場に見合った待遇の検討はされているのだろうか。労働におけるどのような選択肢が利用可能だろうか。それらに影響を与える労働の価値システムや慣習を変化させていくためにも、農園部の女性の労働的価値について再検討が必要である。食糧を市場で入手する能力は、食糧の時価にも左右される。市場の価格変動で食糧の時価が上がれば、家族が十分な食糧を摂れなくなり、子どもや女性自身の教育を削減するかもしれない。また単一換金作物の需要の変動による雇用の危機は、家族を低栄養に余儀なくさせると共に、教育の機会を減少させるなど、女性のエンタイトルメントを減退させる可能性もある[16]。

長い間、閉鎖された社会で従属的労使関係に置かれた人々は、能動的な力の役割を理解することより、むしろ受動者としての役割を理解することが大きかった[17]。民族的マイノリティや低賃金、保健の低水準、労働構造における従属的関係などから、エンタイトルメントの低下を招いてきた。それは、エンタイトルメントの行使に直接的に影響を与える様々な権利や剥奪に対する要求を求めたり、外部とのコミュニケーションの機会や、自信や自尊心をもつことを困難にしてきた。すなわち、単に生活環境や労働条件に対する限定した要求ではなく、自らが責任のある人間として、どのような行動をとりたいのか、の議論や様々な不平等に対する意見など、とくに女性の能動者志向へのサポートや保障の機会について取り上げられることは少なかった。

したがって、農園労働に資する女性たちが、単に家計への貢献者としての労働力ではなく、社会組織のサポートや知識や技能に裏付けられたエンタイトルメント、すなわち女性が、変化を生む可能性をもった能動的な一人の人間として行使できるエンタイトルメントを獲得することが、農園という特殊な環境での社会的、経済的機会の乏しさの中で求められる緊急の課題といえる。

おわりに

農園部で働く女性にとって、基礎的インフラの改善や教育の機会は、エンタイトルメントの（法的）権利を行使することで一定の改善が期待される。その一方で、女性が意思決定過程への参加や望ましい労働条件をめざすことにおいて、政治的、経済的、社会的、文化的自由における女性の能動的な役割が、家族や伝統的コミュニティ、公的政策などに支えられた人の基礎的権利として、より中心的に位置付けられなければならない。

すなわち農園に従事する女性がどのようなエンタイトルメントをもちえるのかは、彼女たちが資源をどのように自由に使えるかではなく、人として何を望み、何をすることができ、どんな状態になれるのか、が議論されなければならない。そのためには労働組織やコミュニティにおいて、政府やPHDTが取り組んでいる生活環境の改善を通じて、農園に働く女性たちに対し、生活に最低限必要な要求を表現する機会と、様々な社会的、経済的サービスへのアクセスの機会の保障が必要である。

さらに生活そのものが農園経営構造下にあるタミル

の人々に対する適正な労働供給や、民族的マイノリティを越えた政治的、経済的、社会的機会の創出が必要である。それは農園に従事する女性が、健康で望ましい生活とはどのようなことか、自らの生活を追求する自由の当事者として、変化していくためのエンタイトルメントに繋がるからである。（本稿ではスリランカ北東部のデータは含んでいない）

〈注〉

1）エンタイトルメントとは、ある社会において正当な方法で、ある財の集まりを手に入れ、自由に用いることのできる能力や資格。A. センは R. ノージックによる規範的用法ではなく、人々の経済状況を描写するための記述用語として使っている。センの潜在能力概念の構成要素とされる。A. セン　黒崎卓・山崎幸治訳　2000 『貧困と飢饉』 岩波書店　p.1−12, 71, 223

2）農園部は学童の発育不全（年齢の割に低身長・低体重）も高率である。[Sri Lanka DHS 2002: 7−11]

3）ヌワラエリヤ県の電気普及率は、コロンボ87％に比べ44.6％で、トイレは、ウヴァ州バズウラ県に次いで2番目に整備が遅れている。世帯収入の月平均値は、都市部Rs.22,400農村部Rs.11,700農園部はRs.7,300でセクター格差がある。女性の成人識字率はコロンボ93.1％に比べ、ヌワラエリヤ県は76.6％である。[Sri Lanka DCS 2001 2002]

4）2005年3月度「適正技術を用いたプランテーション労働者の生活環境改善調査に係る提案型調査」に引き続き、その現状確認及びジェンダー格差是正のための教育的配慮を踏まえたワークショップが7日間の日程で実施された。

5）重労働であったが、衣食住が保障されたため多くの人々が移住し、一時は国内人口の15－20%を占めた。現在農園部の人口規模は国内の約1割であるが、中部州ヌワラエリヤ県（人口約70万人）では、人口の7割が茶園労働に携り、内36万人がインド系タミルの人々である。

6）ID カード（市民権）がないと選挙権を得ないだけでなく、移動、雇用の選択、職業の転換が難しい。土地がもてず副収入の道も乏しい。

7）生活環境や保健の低水準は、農園部ウヴァ州のバズウラ県もあげられる。薪での調理は都市部コロンボでは32％、ヌワラエリヤ県では88.8％である。[Sri Lanka DCS Nuwara Eliya 2001 2003]

8）磯邉厚子　2006 「ヌワラエリヤの女性たち　母子保健の一考察」『Core Ethics』 立命館大学大学院先端総合学術研究科 Vol.2：225−232

9）労働組合の会議や町への買い物など、主に男性が務めるため、女性が農園外に出ることは稀である。

10）農園により労働時間数が多少違う。物価上昇に伴い賃金の上昇はあるが、ノルマが増えるなど待遇改善に繋がらない。（2006年2月で160Rs.／18kg）

11）最近農園クリニックに政府機関の医師が月に1回派遣されるようになり、全ての出産は政府機関病院で行えるようになった。

12）多数派言語であるシンハラ語に対し、人々は日常的にタミル語を使っている。

13）たとえ「当人が発言、参加する自由に関心をもたないとしても、それに関して選択のない状態に置かれているならば、自由の剥奪といえる」（要約）。A. セン　石塚雅彦訳　2000 『自由と経済開発』 日本経済新聞社　p.39

14）自由とは、人が価値あると認める理由のある結果を達成する機会であると共に、意思決定に関る機会〈選択肢〉をどれほどもっているかを問題にする。A. セン　池本幸生・野上裕生・佐藤仁訳　1999 『不平等の再検討』 岩波書店　p.47−54, 59

15）月収は労働日数によって異なるが、夫婦で働いている場合、Rs.4,000－6,000となる。スリランカ貧困ラインRs.1,423（2002）を上回るが、食糧などは現金交換に頼らざるを得なく、菜園や家畜を持つ農村地域に比べると、持続的・潜在的な貧困状態である。

16）ID カードの取得が進むにつれ、若い女性はプラッカーを嫌い、コロンボに出稼ぎに行くなど若者の農園離れがみられる。インドやアフリカ新興国の紅茶生産の増加や、世界的な紅茶需要の減少などにも影響を受ける。

17）「恒常的な困窮が続くと、人々は窮乏状態と折り合いをつけてしまうことがある。その結果、変化を要求する勇気をなくしてしまう」（要約）A. セン　石塚雅彦訳　2000 『自由と経済開発』 日本経済新聞社　p.69−70

（いそべ・あつこ　立命館大学先端総合学術研究科・博士課程　公共コース）